

## 7 「家族関係」の実感

### ① 分野別実感の概況

#### ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.91 点であり、基準年調査より 0.07 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

#### イ 属性別の状況

##### ○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「50～59 歳」が低く、「20～29 歳」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦世帯」が高くなりました。
- ・ 子の人数別では、「4 人」が低く、「2 人」が高くなりました。

##### ○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 9 のとおりでした。

表 9 「家族関係」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R 4 -H31
県計		3.84	3.91	0.07
性別	女性	3.84	3.94	0.10
年代	40～49 歳	3.77	3.95	0.18
職業	会社役員・団体役員	3.73	4.01	0.28
	学生＋その他	3.87	4.15	0.28
世帯構成	2 世代世帯	3.82	3.93	0.11
子の数	3 人	3.83	3.96	0.14
居住年数	20 年以上	3.83	3.90	0.07
広域振興圏	県南広域振興圏	3.74	3.89	0.15
	県北広域振興圏	3.74	3.90	0.16

### ② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表 9 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由」については、実感が上昇した人の回答理由は以下のとおりでした。
  - (ア) 会話の頻度（多い・少ない）
  - (イ) 同居の有無
  - (ウ) 困った時に助け合えるかどうか
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「会話の頻度（多い・少ない）」、「同居の有無」、「困った時に助け合えるかどうか」であると推測されます。

### ② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性は表 10 のとおりであり、低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

### ○ 夫婦のみ世帯

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」で、「夫婦のみ世帯」の回答者が「感じる・やや感じる」と回答した項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 会話の頻度
- (イ) 困った時に助け合えるかどうか
- (ウ) 同居の有無

表 10 「家族関係」の実感において高値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4
世帯構成	夫婦のみ	4. 05	4. 00	4. 04	4. 02	4. 03	4. 02	4. 10